赤磐市議会議員　　第２号

さわ けん　通信
（温かいまちづくり）

子どもからお年寄りまで

安心して生きがいを持って暮らせる

赤磐市を目指して

平成 25 年 11 月発行

今回の通信について

９月議会における私の質問内容は、議会だよりを読んでいただくことにして、赤磐市における「まちづくり」の提案を今後同通信でしていこうと思います。今回はまず、私が経験したことを前提に「まちづくり」についての私の基本の考え方を話させていただこうと思います。　澤　健

≪ヨーロッパのまちづくりの知恵を赤磐市に活かそう≫

Ⅰ．ヨーロッパのスキーリゾート都市の視察でわかったこと

私が JR 東日本に勤めていたときに担当したのが、新幹線が直接スキー場に乗り入れる「ガーラ湯沢スキー場」の企画・開発でした。このスキー場の企画のため、ヨーロッパの有数なスキーリゾートであるシャモニー（フランス）・サンモリッツ（スイス）などの視察にいきました。どのスキーリゾートも 3000 メートル以上の樹林限界（木が生えていない）を超えたなだらかな斜面に展開される大スキー場であり、目の前にはアルプスの山々の壮大な景色があります。また、ヨーロッパでは一か月程度の長期休暇が当たり前です。東京から新幹線で１時間の日帰りスキー場である「ガーラ湯沢」に学ぶものは何もないと思い、最初は、しっぽを巻いて、すぐに日本に帰りたいと思いました。しかし、しばらく滞在しているうちに、私が気づかなかった、「JR 東日本が湯沢にスキー場を作る本当の意味」をヨーロッパのスキーリゾート都市は教えてくれたのです。

スキー場からの雄大なアルプスの景色

ヨーロッパのリゾート都市は、リゾート客を奪い合う、激しい都市間競争を長い間繰り広げてきました。そこで、シャモニーという都市を例にすれば、シャモニー内にある多くのスキー場は、共通リフト券を作り、スキーや登山以外のエンターティメント施設を共同で運営したりしていました。都市間競争に勝つために、シャモニーという都市全体の魅力を上げることを共同で強力に行っていたのです。

湯沢は、東京から近いというメリットのため、湯沢内のスキー場同士は、けんかばかりしてきました。しかし、当時長野新幹線の開業がまじかで、信州の大型スキー場まで東京から飛躍的に行きやすくなることになっていました。

「JR 東日本がガーラ湯沢スキー場を作る本当の意味」とは、けんかしているスキー場同士をつなぎ、湯沢が一体となってまちの魅力をあげ、信州に対抗するための、まちづくりのコーディネートを、JR が行うことだったのです。実際私の JR の後輩等が今までになかった湯沢共通リフト券等を作り、湯沢を一体化し、湯沢全体の魅力アップ（ブランド化）に貢献しています。

Ⅱ．ガソリン車のないツェルマット（スイス）

私が視察したスキーリゾート都市の中で最も地域協力がすごかったのは、ツェルマットでした。ツェルマットは名峰マッターホルンのふもとのまちで、スイス随一の人気観光スポット。5600 人の人口のまちに年間 250 万人以上の観光客が訪れます。ツェルマットでは、街中は、環境を維持するために、ガソリン自動車は入ることができません。交通手段は、電気自動車と馬車です。住民の車も郊外の大型駐車場に止めて自宅までバスや歩きです。個人にとっては、不便な面もありますが、ガソリン車がなく、環境が保たれていることが、ツェルマットの大きな売りです。個人が少し不便になっても、都市全体の魅力をあげて都市間競争に勝つことが、結局個人にもメリットがあると住民がわかっていて、住民一体になってまちづくりを行っています。これがヨーロッパのまちづくりの知恵です。私はすごいと思いました。

ツェルマットの街中を走る馬車

Ⅲ．ヨーロッパのまちづくりの知恵を赤磐市に活かそう

さて、日本そして赤磐市に目を向けて見ましょう。少子高齢化が進む中で、高齢化の対策としても子育て世代が他県他市から赤磐市を選んできてもらうこと（子育て世代の誘致）が、非常に重要です。高齢者を支えるのは、子育て世代の方が納める税金です。高齢化すると町内会の維持も難しくなります。岡山県のすべての都市、そして日本全国の都市が子育て世代の誘致を考えており、今後どんどん激化します。子育て世代誘致の都市間競争に赤磐市が勝ち、「子育てするなら赤磐市」というブランドを作る必要があります。もちろん、行政にも頑張ってもらいますが、行政だけでなく、まさにツェルマットや他のヨーロッパの都市のように、住民も知恵を出し合い協力し合うことが大切です。私は、子どもからお年寄りまでが触れ合い助け合えるまちが子育てしやすいまちだと思っています。そして子育てしやすいまちは、すべての世代にとっても温かく暮らしやすいまちだと私は確信しています。住民による学校支援（学校支援ボランティア制度）ももっと進めていく必要がありますし、子どもたちが地域で活躍し、成長していく場も大事です。子育て支援・保護者支援の様々なアイディアを出し実行して、子育て世代から選ばれる魅力あるまちにして、子育て世代が、赤磐市で育てて良かったというまちを皆で作っていきましょう。そうでなければ、赤磐市は残っていけないと私は思っています。

次回の「さわ　けん通信」は、赤磐市の具体的なまちづくりの提案（皆さんに議論していただくたたき台）を出したいと思います。よろしくお願いいたします。

発行元　さわ　けん（澤　健）　赤磐市桜が丘東４－４－２４２　TEL ：０８６－９９５－３８２０
さわけん HP　http://www.sawaken-smile.com/　（「さわけんソング」も聞けるので一度見てください　）